



世界に希望を生み出そう

脇町ロータリークラブ

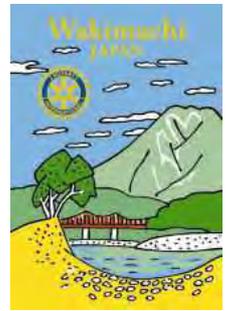
第2670地区

徳島第2分区 脇町ロータリークラブ

2023年9月7日 木曜日

第9回例会 No. 2848

会員総数:40名 出席者26名 出席率:65.00%



●メーキャップ

●会長挨拶

川原会長 皆様、こんにちは。本日も多くの方にお集まりいただき、心からの感謝を申し上げます。

今日の例会は、私たちにとって非常に特別な日となっています。福岡県柳川市出身で、佐渡ヶ嶽部屋に所属し、その力技と人間性で多くの相撲ファンを魅了してきた琴奨菊さんを、この場にお迎えすることができ、本当に光栄に思います。東の大関という輝かしい最高位を極め、現在は年寄・秀ノ山親方として、次世代の力士たちへの指導をされています。私もその多くのファンの一人で、個人的に琴奨菊関の「がぶり寄り」が大好きでした。その技一つ一つに、彼の持つ熱意や情熱、そして相撲への真摯な姿勢が感じられ、その姿には何度も感動させられました。大相撲という伝統的なスポーツは、日本の文化や価値観を形成する上で、非常に大きな役割を果たしています。それは、相撲の舞台裏での日々の厳しい稽古や、土俵上での熱戦、そしてそれを支えるファンの熱い声援に象徴されています。このような相撲の世界には、私たちロータリークラブの活動に共通する要素が数多く存在しています。

私たちロータリークラブは、地域や世界のさまざまな問題に取り組むために、日々努力しています。それは、相撲の力士が日々の稽古に励むのと同じ、継続的な取り組みが求められるものです。また、大相撲とロータリークラブの活動の根底には、誠実さや尊敬、そして奉仕の精神が流れています。琴奨菊さんの相撲人生を見ても、多くの困難や挑戦があったことは容易に想像できます。しかし、その度に立ち向かい、乗り越えてきた姿は、私たちにとって大きな勇気やモチベーションの源となります。彼の経験や哲学、そして相撲に対する情熱から、私たちが学ぶことは数多くあります。今日、この場で、琴奨菊さんの貴重なお話を伺うことができること、そしてその中から新しい知識や気づきを得ることができることを、心から楽しみにしています。最後に、秀ノ山親方、本日はご多忙の中、私たちの例会にお越しいただき、心より感謝申し上げます。私たちと共に、有意義な時間を過ごすことができるよう、皆様のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本日も、お付き合いいただき、ありがとうございました。

●幹事報告

佐藤直樹幹事

到着週報 鴨島 阿波池田 美馬 洲本各RC

到着書類 ライト&ライフ

連絡事項 9月28日(木)は夜間例会となります。BBQを企画しておりますので、皆様お楽しみに。

●委員会報告

親睦委員会 結婚記念日 六車会員、黒川会員

藤原義浩会員 9月誕生日 宮本会員、田北会員、木下会員、黒川会員

奥様誕生日 細川会員、藤原武志会員、木下会員

川原会長 9月、新しい季節の扉が開く月に誕生日を迎える会員の皆様へ心からのお祝いを送りたいと思います。秋の始まり、新米の収穫、月夜の美しさ。9月生まれの皆様はこの特別な季節に新たな一年をスタートされます。脇町ロータリークラブにおいても皆様の存在が私たちの活動に彩りと活力を与えてくれます。9月生まれの皆様お誕生日おめでとうございます。この新しい月が皆様にとって幸大きいものとなりますよう心からお祈りいたします。

ゴルフ部長 県下秋季親睦ゴルフの案内 11月3日(金)祝日 場所:コートパール徳島ゴルフ倶楽部

笠井会員 脇町RC月例 9月17日(日) 場所:四国カントリー

プログラム委員長
友成会員

本日は秀ノ山親方、元大関琴奨菊閣にお越しいただきました。

私から秀ノ山親方をご紹介させていただきます。秀ノ山親方は福岡県柳川市出身で高知明德義塾高校から2002年初場所です。その後2016年初場所です。日本人力士として十年ぶりの幕内優勝をとげました。その時の祝賀パレードを地元福岡県柳川市、佐渡ヶ嶽部屋のある千葉県松戸市で行った時には16万人以上のファンに祝福されました。2020年11月場所です。現在は第14代秀ノ山親方として後輩の指導をされています。このような素晴らしい経歴の秀ノ山親方に例会にお越しいただきました。本日は現役のエピソード、10月23日開催の徳島場所についてお話しいただき、皆さんも聞きたいことを質問していただければと思います。それでは秀ノ山親方よろしくお願ひします。

●プログラム

外部卓話
秀ノ山親方

本日はこのような場所でお話できてとても光栄に思ひます。改めまして元琴奨菊の秀ノ山です。昨年の10月1日に断髪式を終えまして、約20年間の力士人生に一つの区切をつけました。私の生まれた福岡県柳川市は雲龍型で有名な横綱雲龍閣の生誕の地です。本当に相撲に親しみやすい相撲環境がありました。地域の方々や家族は、私のために土俵を作ってくれたり、いろいろ指導してくれたのが相撲を始めたのがきっかけです。また、中学校高校は福岡県内の中学校で相撲がやるところがなく、高知県の明德義塾に相撲留学をしました。中高と相撲一筋にやってきましたけれども、入門する時には先代の佐渡ヶ嶽親方に声をかけていただき、「相撲は番付社会だよ。地位も名誉もすべて土俵に埋まっているから、苦しいけども自分の力で勝ち取りなさい。」ということ言われて、相撲界に入門しました。

高校時代、全国大会で7回の優勝をしましてある程度の自信をもって入門した相撲界でしたが、やはりプロの世界はとてつもなく厳しく、いろんなプレッシャーがありまして、半年間で体重が30キロ落ちました。なんてプロの稽古って厳しいのだろうと思って、苦しいながらも目標を持って頑張った時期が、すごく懐かしく思ひます。

その時期があり、アマチュアから大相撲への体作りができて、二年半で関取と呼ばれる十両に上がり、そこからは皆さんの応援のおかげで最終的には大関という地位まで行きました。本当に苦しい中、豊ノ島、稀勢の里と当時のライバルが先を行くなか、私は一場所遅れて十両に上がったので、彼らの背中を追いながら一生懸命やってきたわけですが、本当にライバルの存在と相撲部屋の環境とで、やはりたくさんの方々の応援のおかげで、自分自身いくら苦しんでもいいけど、みんな本当に楽しませたい、喜ばしたい一心で頑張ってきました。初優勝の時は本当にたくさんの方から喜んでくれて本当に嬉しい記憶です。自分が相撲で学んだことは、やはりあの苦しい時の乗り越え方をどう向き合うかっていうところをすごく考えて、学んだことです。何事にも正面からぶつかって、自分の力をしっかり上げていき、自分の相撲で立ち向かっていくことが何よりの近道かなと思って、一生懸命頑張って耐えて来たことは懐かしく思ひます。これからは親方として後輩の指導に当たりますが、私が学んだ苦しい時の乗り越え方、とにかく相撲が好きじゃないと我慢できないよ、また環境がしっかり支えてあげながら目標を失わないように環境作りをしないとその子は育たない、そういうところをこれから出会う弟子たちに教えていながら、相撲道発展のために頑張っていきたいと思ひます。それと10月23日に徳島場所が行われます。徳島の場所は七年前に行われたのですが、七年前の初場所は私が優勝した場所です。その時は現役で徳島の場所に来たのですが、今度は親方として初めての仕事で徳島場所が行われます。総勢約200名の力士が各巡業に行くのですが、力士は皆、徳島に入り地域も盛り上げてまいります。当日の催し物としては、「しょっきり」とか「幕内土俵入り」とかTVで放送しているそのままの興行をやりまひます。私は福岡であった巡業を見て力士になりたいと思ひて、そういう夢を持ちましたので、たくさんの方々に足を運んで頂き、また子供たちにもたくさん来ていただき、夢を後輩たちにつなげていけるような活動をしていまして、是非お誘ひの上、参加していただけたら嬉しく思ひます。本当に口下手であまりこういう場に慣れてないのですが、皆さんの前でお話できてとても嬉しく思ひます。また今後も大相撲と秀ノ山をよろしくお願ひします。最後に私、来年、部屋を持ちたい夢がありまして、たくさんの方々に募集してあります。いい弟子がいまひたらすぐスカウトに飛んでいきますので、ご紹介のほどよろしくお願ひします。本日はどうもありがとうございました。



【質問コーナー】

問.1 六車会員 昔ほどの都道府県にも相撲の新弟子を募集するっていうことで、スカウトのような方がおりましたけど、今は子供の人口も減少しています。そういった弟子の受け入れは結構大変なのでしょうか。

答.1 秀ノ山親方 昔は各小学校とか各市町村に土俵があって、相撲は親しみやすいスポーツでしたが、野球とかサッカーとかがたくさん出てきて、もっと相撲の魅力を伝えきれてない大相撲の相撲協会があると思います。遠方になかなか足を運んで行くことがなく、東京は必ず相撲協会の相撲大会があるのですが、都道府県にはないため、都道府県すべてに相撲大会が開かれたら本当に相撲人口も増えると思って、今新しい親方達と働きかけをしています。やはり出会いは親方が出向いて、たくさんの方と合うとご縁が生まれるものだと思うので、私はそういう活動をどんどんして行きたいと思います。一応、入門規定はですね 15 歳から 23 歳まで入門できます。

問.2 川原会長 相撲という職業は、食べるのも仕事のうちだと思うのですが、中学生とか高校生ぐらいから、いろんなイメージしながら食べる努力をしていたのでしょうか。

答.2 秀ノ山親方 まず力士がどれぐらい食べるかっていうのは、自分が大関に上がった際、若い衆にみんなで食事行こうっていう 20 人で食事行った時にしゃぶしゃぶを食べに行っただけですけども、600 人前食べました。支払いはすべて自分ですので、ちょっと大変だったっていう思い出があります。力士はやはり食べこなす時期が一番強くて、稽古も大事、食べるのも大事、睡眠も大事で、食べこなす時期に番付が上がるような強さになってきます。入門当初は、食べきれない力士もたくさんいますけども、井ぶり飯をしっかりと 2 杯はしっかりと食べきるんだよ、そういうところから始めて体作りをして行きます。15 歳入門の頃はまだ成長期なので筋肉をつけるためにたくさん食べて、トレーニングして稽古して、体作りから始めないと、相撲会は年齢関係なく体重も無差別ですが、15 歳でも強ければ番付で出世できる世界です。例えば、稀勢の里の話はしますけど、横綱稀勢の里は相撲も未経験でした。野球をやっており、結構成績も良く常総学院とか、有名私立に引っ張られていたそうですが、みるみる内に強くなっていて、約二年後はもう関取として十両にいましたし、その一年後はもう三役まで到達していましたから、こんなに夢のある大相撲はないなと心から私は思っています。

問.3 佐藤順二会員 来年は誰と誰が横綱になっているのでしょうか。

答.3 秀ノ山親方 豊昇龍と琴ノ若。そうですねあとは若元春とかその辺ではないでしょうか。貴景勝とかもどんどん上がってきていますけど、膝の怪我、首の怪我で、怪我したらなかなか治るまでに時間がかかります。奇数月は本場所がありまして偶数月に各地の巡業を回ります。今年は巡業が 90 日間ぐらいありまして、365 日のうち 200 日ぐらいは相撲をやっていますから、壊れたら本当に治るまでに時間がかかるというところで、貴景勝をあげたいのですが、怪我をしない人が横綱になるのでは、という感じですかね。



問.4 佐藤俊彦会員 スポーツで強くなるためには、大変厳しい指導があり、今ではハラスメント言われてしまうと思うのですが、指導の方法は時代と共に変化しているのでしょうか。

答.4 秀ノ山親方 稽古場では竹刀でぶっ叩かれながら強くなった私ですけども、引退してから本当にそのありがたさがすごくわかります。今 15 歳の入門者が 2 人、私の内弟子として、部屋の中に居るのですが、その子にいろいろ指導しているのは、稽古場は厳しく、しっかり目的を持たせて、相撲の基礎を教えます。そしたら、厳しくした方が挨拶できるようになって、気遣いできるようになって、しっかり自分で考えて行動できるようになったというところで、甘やかしてというよりも、私はメリハリをつけて、しっかりこの時間をやるぞ、この時間はオフにするぞ、と言うところで厳しさ ON、OFF をしっかりつけながらやっていくことで、この時代を乗り越えられるのではないかなと思っています。あとは閉鎖されたと思われがちな大相撲ですけども、稽古場にテレビをモニターおきまして、秀ノ山部屋のファンクラブ

入っていただいた方はモニターを通して、稽古の様子を見ることが出来ます。

ひとりひとり顔が映るモニターを通じ、登録してくれた方、そういうたくさんの方の前で稽古させて、そこで親方が強く指導する分には全然いいんじゃないかな。やはりたくさんの方の愛を持って、そのくらい見せ方をしっかりしながら、みんなが納得していただけるような指導方法に秀ノ山部屋をもっていきたいと考えています。でも竹刀はですね、竹刀だけはダメですね。

問.5 田北会員 現役時代、琴パワーの大ファンでした。親方ご自身が対戦された中で一番強かったなと思う方。それと親方が考えられる過去から現在の歴史の中で、この人が最強だというレジェンドの方を教えてください。

答.5 秀ノ山親方 一番強かったなと思う力士は白鵬関。自分引退して気づいたことがありまして、強い人は間合いを作るのが上手なんだと思いました。塩を取りに行くときも一つの動作、ルーティンがゆっくりで、そこに私たち対戦相手はゆっくりすぎて合わせてしまったところで、立ち合い呼吸がすべて白鵬関に有利になっていたということに気づきました。もう一つ引退してから白鵬関にちょっと聞いたことがありまして、大関の正代と相撲をとった時に、立ち合いの仕切りから、もう一番後ろに下がって白鵬関が立会しました。横綱はそういう立会はダメみたいな批判がたくさん出ましたけども、なぜしたのですかと聞いた時に、「正代と仕切り線ギリギリで立ち合ったら勝つイメージが湧かなかった。立ち合いの仕切り線をちょっと下げてみたら勝つイメージが湧いたんだ。頭は良いイメージをわいた時は、体が自然と動くが、悪いイメージの時はそこに引っ張られて体が動かないだよ。どれだけ俺がシュミレーションをして、イメージして、その当日の取り組みをしているかこれでわかるでしょ。」っていう事を聞いた時に本当に白鵬関って誰よりも考えているなと思って、勉強になったし、引退する前に聞いたらよかったなと思います。あと一番強かった歴史上の力士は、やはり大関魁皇関です。私は小学生から魁皇関のようになりたいと思って相撲をしていました。初対戦の時、本当ワクワクした気持ちでぶつかって行ったのですが、もう岩のような体で、当たっていた私の首が折れるぐらい本当に強い胸板で、これじゃ相撲界生きていけないなと思い、鍛えなおさないといけないな、と思わせてくれたのが魁皇関だったので、脳裏の中ではものすごく強いイメージがあります。

問.6 佐藤順二会員 そのブレザーを会長に着せてほしいです。

答.6 秀ノ山親方 現役の時は体重が190キロありました。180cm、190キロ。ちょっとダイエットしまして30キロ落ちました。190キロの時は全てオーダースーツだったのですが、今はビッグサイズの店でやっとそこで品物を選べるっていうことで、力士の時は各部屋に業者が売りにくるのですが、サイズで買うのでみんな同じパンツとか同じシャツとかだったの、もうちょっと痩せて、いっぱいお洒落をしたいなと思います。

【記念写真】



●例会ダイジェスト

今週の見出し！

ごっちゃんです！

1. 元大関の貫禄。



2. 5 Lぐらい？



1. 琴奨菊関 相撲道を語る。

2. ビックなジャケットを羽織る第60代会長。

3. がぶり寄り！



4. サイン頂きました。



3. いい脳内イメージで体動きましたか？

4. 大相撲は秀ノ山部屋の力士に注目です！

次回例会

2023年9月14日(木)12:30～

清月屋敷

プログラム

卓話 細川会員

- ☆ 次の会員は例会欠席でした。 一井会員、岡本会員、小野会員、上柿会員、河淵会員、木下会員、郷司会員、須藤会員、千葉会員、秦会員、藤村会員、南由紀子会員、南善幸会員、吉野会員 メークアップして下さい。
- ☆ 次回例会の出欠を黒川出席委員長まで連絡してください。